



里見 雅行

一般社団法人東北経済連合会 常任政策議員
観光文化委員会 副委員長

東北の観光復興に向けて

東日本大震災後に落ち込んだ東北の観光地は、風評被害もあって、なかなか震災前の水準に戻らなかった。その厳しい状況の中、各自治体関係者や観光関係者が中心になって、懸命に東北の観光をPRし、各地でイベントなどを含むさまざまな取組みを行ってきた。報道関係も、NHKの大河ドラマや朝の連続テレビ小説など、東北を舞台にした番組を積極的に制作してきた。

今年の4月から6月には仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)が開催され、地域が主体となって観光資源を積極的にPRするとともに、県民総参加のおもてなし運動が繰り広げられた。特に、沿岸被災地への復興応援ツアーやタクシープランに首都圏などから多くの人々が参加し、被災地の現状に理解を深めつつ、美味しい海鮮料理を食べ、地域の産品を買っていただいた。参加された方からは、充実した観光だったとの感想をいただいている。観光は単なる物見遊山、娯楽ではなく、いろいろなことを学び、人生の幅を広げるものであるという考え方が認められつつあると思う。

今年10月から秋田、2014年4月から新潟、6月から山形、2015年4月から福島と、これからもDCが続々と開催される。各地域ではこれをきっかけにして、観光資源にさらに磨きをかけ、PRすべき魅力を具体的に整理して全国や海外に発信していくことが重要だ。東北には、長い歴史の中で各地で育んできた宝物が豊富にある。郷土で大切に培ってきたものは、そこで生まれ育った人には当たり前で「ありふれた」ものに見えるが、しばしばそこを訪れる人に感動を与える。単に「景色がいい、温泉がある、美味しいものがある。」というだけでなく、そこに行ってみたくと思わせるその土地ならではの材料を提供し、ストーリーや観光ルートを提案する努力が求められる。また、農林水産業や製造業を含めて重層的に魅力を作っていくことも欠かせない。

東北の観光復興のためには、現状の苦しさを訴えて支援を求めるより、観光関係者だけでない様々な人が協力して、多くの人に訪れていただくための工夫、努力を積み重ねることが大切だ。

(東日本旅客鉄道株式会社 前仙台支社長・さとみ まさゆき)